

No. 1225

憩いの森

— 愛知・鳳来 —

国民の80パーセント以上が、市と名の付く区域に居住している今日、森林・林業を知らない子供達が増加してきています。このような子供たちに、森林とは何か、林業とはどんなものかを知ってもらい、それらが人間の生活にどんなに役立っているか、どんなに大切なものか、自然との触れ合いを通して知ってもらうための施設“青少年の森”が全国各地でオープンしております。愛知県・鳳来町の“県民の森”では郷土の森、県木の森、生産の森、野鳥の森などを作り、これらの森の中にキャンプ場、展示場を配置し、子供たちに学習の場を提供しています。子供たちは、キャンプを通じ、遊歩道の散歩の中で、自然に触れ森林のしくみを理解しています。

只今上映中

— 福島・梁川 —

福島県伊達郡梁川町。映画が斜陽と言われて、久しいが、この町に今なお、けんめいに映画の灯を守り続けている映画館がある。明治16年に建てられ最初は芝居小屋としてスタートした広瀬座がそれだ。この映画館を守っているのはバアちゃんのステヨさん（84才）カアちゃんの子エさん（52才）、ヨメさんの友子さん（31才）の女性3代。数年前、唯一の従業員だった映写技師がいなくなってからは子エさんと友子さんの2人が交替で代わりをつとめている。入場者は一日平均5、6人。ひとりも来なくて休館になることもあるという。フィルム代にもならずまさに100%赤字経営。おばあちゃんは言う「昔は沢山入ったが今は少なくなった。2人でも商売だから仕方がない。いまに良いこともあるだろうと思ってやっている」。税務署もあきれ完全赤字の広瀬座を支えるのはトーちゃんの昇さん（62才）と息子の貞雄さん。15.6年前から映画の斜陽化を見越して清掃業を始めた。毎週火曜日に開かれる家族会議。次週はどの映画を上映したら良いかを夜おそくまで熱っぽい話し合いが行われる。映画を愛する家族みんなの見事なチームワークで広瀬座は今日も休まず上映中だ。